

令和二年度卒業式式辞

穏やかな陽の光を受けて、大門沢川を流れる水の瀬音に、本格的な春の訪れを感じる、そんな頃おいとなりました。

まず、本日、新型コロナウイルス感染症拡大を未然に防止するため、ここにご来賓も保護者のかたもご臨席いただけず、令和二年度長野県松本蟻ヶ崎高等学校卒業証書授与式の挙行となりましたこと、まことに申し訳なく思います。

あわせて、この場にはおいでいただけませんでした。このよき日を迎えられた保護者の皆様がたに、衷心よりお慶びを申し上げます。また、本日まで本校の教育活動にご理解ご協力をたまわりましたことに、改めまして、厚く御礼を申し上げます。

さて、ただいま卒業証書を授与いたしました二七九名の卒業生の皆さん、本日はご卒業まことにおめでとうございます。松本蟻ヶ崎高校教職員を代表して、ご来賓、保護者のかたの分まで、心からお祝いを申し上げます。

卒業生の皆さんにとって、三年間の高校生活はいかがだったでしょうか。折から、今年度は高大接続改革・大
学入試制度変革の年にあたり、たび重なる中止や変
更に振り回されました。そこへさらに新型コロナウイルス
スによる感染拡大という、過去には考えにくかった想定
外の事柄の発生が追い打ちをかけました。しかし、松
本蟻ヶ崎高校というすばらしい環境のなかで、皆さん
は学習に精一杯取り組み、また生徒会活動に、部活
動に、学校行事に思いきり汗を流し、負の条件や心の
動揺をたくましく乗り越えようとしていただきまし
た。そのことに、心より敬意を表し感謝を申し上げま
す。

「人はパンのみにて生きるにあらず」ということばがあり
ます。物質的に事が足りさえすればよいわけではなく、
精神的に満ち足りることが大事だということでしょう。
作家の金原ひとみさんは、「ある種の人々にとっては、生
きていくために「生きていく」以外の何かが必要なんで
す」と述べています。これは特定の仕事や趣味を持つ
人々だけに言えることではないと思います。まして文
化芸術活動を大切にしている本校においてはなおさら

です。いったい私たちはどんな生きどのように生きればいいのか、どこを飛んだのか、それが一番大切なんだ、と唄われています。皆さんはこれからどう飛びますか。どのよう

に生きていきますか。

皆さんが中心となった生徒会は、今年度の文化祭のストーリーガンを「灼熱 emotion ～燃やせ魂！懸けろ青春～」と設定しました。ぎんが祭は、かつて「総合発表会」と呼ばれたところから始まったかけがえのない行事です。

この新型コロナウイルス影響下において、皆さんは工夫に工夫を重ね、今年度のぎんが祭を達成しました。前日祭はオンラインで開催、そして学校史にはダンスパーティーと記され、いま現在ダンパと呼ばれる伝統行事を、感染対策を徹底し、「ソーシヤル・デイス・ダンス」と銘打って実現させました。この「ソーシヤル・デイス・ダンス」という命名がこのぎんが祭のすべてを象徴しているように思います。「イルミ」と呼ばれる伝統行事でも、日没後、校舎の窓に「カガヤケ!!」ギンガノウウニ」という文字を浮かび上げらせ、また、もともと悪疫を祓う意味があるといわれ

る花火を打ち上げ、地域の人々に喜んでいただきました。地域とのつながりがさらに深まった瞬間でもありました。

学習面では、二年次の研修旅行やオンライン学習の充実、探学的な学びの推進、プレゼンテーションの力量など、頼もしい限りでした。自らの進路についての思索を深め、自分の道を歩みはじめようとする人も多くみられました。

部活動においても、卒業学年においては中止になった大会等が多くありましたが、代替の企画等で、一人ひとりががんばりを見せた学年でありました。そのような三年間のなかで得られた、友人や先生たち、地域の皆様がたとの出会いは、皆さんにとってかけがえのない一生の財産となるに違いありません。

いったい何に価値を見出せばいいのか、ある意味、混乱の時代、卒業生の皆さんにおかれましては、どうか新しい時代を力強く切り拓いていってください。

折しも、松本蟻ヶ崎高校は、令和三年度、創立一〇周年を迎えます。こういった周年行事の機会に、学校の知られざる歴史を確認していくことは大切なこと

ですが、たとえば学校史によると、敷地の南側の元玄関のところに大木となっている三本のいちようは、伊東祐亨・乃木希典、そして福島安正という三将軍のお手植えのいちようであるということが記されています。本校として大切にしていかなければならないものはなにか。これを機会に同窓生・在校生・地域の皆さんとみんなでご考えていきたいと思います。

校歌に詠われた「愛と真理と人のみち」に象徴される崇高な理想を胸に、本校の卒業生であることを誇りとして、それぞれの分野で活躍していただきませう、おおいに期待しています。

卒業生の皆さんと、ご出席をお控えいただいた保護者の皆様がたには、おわび申し上げますとともに、ご理解ご協力に感謝いたします。そして、重ねてお祝いを申し上げます。本日の式辞といたします。

令和三年三月四日

長野県松本蟻ヶ崎高等学校長 卷山圭一